

特別企画

まちの安全遺産 火の見やぐらを語る

黒部ダム建設工事関連施設として大町市の高瀬川に誕生して60余年。

昭和42年に穂高のまちなかに移築再生され、地域の安全を見守ってきた火の見やぐらが、その役割を終えて間もなく姿を消そうとしています。

黒部からやって来た地域防災の要・安全遺産の火の見やぐらとして、住民の皆さんに愛されてきた火の見やぐらについて語る集まりを開催いたします。

内容

◎火の見やぐら研究家によるミニ講座

題：火の見櫓あれこれ

講師：平林 勇一（一級建築士・火の見ヤグラー）

著書『あ、火の見櫓！ 火の見櫓観察記』

◎座談会

・火の見やぐら建設当時の消防団員の方々ほか

※座談会終了後、火の見やぐらのもとへ移動し、
現地鑑賞を行います（自由参加）

日程 令和5年10月1日（日）

時間 10：00～11：30

（11：30頃、火の見やぐらのもとへ移動）

会場 穂高町区公民館

（安曇野市穂高5960-3）

定員 50名（先着順）

【新型コロナウイルス対策について】

- ・会場では消毒にご協力ください。
- ・マスク着用は任意といたしますが、
周囲へのご配慮をお願いします。



主催 ココブラ信州実行委員会

共催 NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団・安曇野案内人倶楽部

協力 穂高町区・等々力町区

問合せ 0263-84-5021（ココブラ信州事務局 高松）

市民タイムス

安曇野

発行所/市民タイムス：本社/〒390-8539松本市大字島立800番地
TEL (0263) / 受付47-7777 編集47-7774 広告48-2000 販売47-4755 ©市民タイムス2023年
FAX (0263) / 受付48-2422 編集47-1654 広告47-8585 販売48-2422 支社/安曇野・塩尻 支局/長野・木曾

安曇野支社/〒399-8304安曇野市穂高柏原2684
TEL (0263) 82-0001 FAX (0263) 82-0010

小屋のつかった珍デザイン



解体が決まった火の見やぐら

朝日村は「中間に小屋があるのは見たことがない。唯一無二と評価する。一方、火事を知らせる用途で使うことは

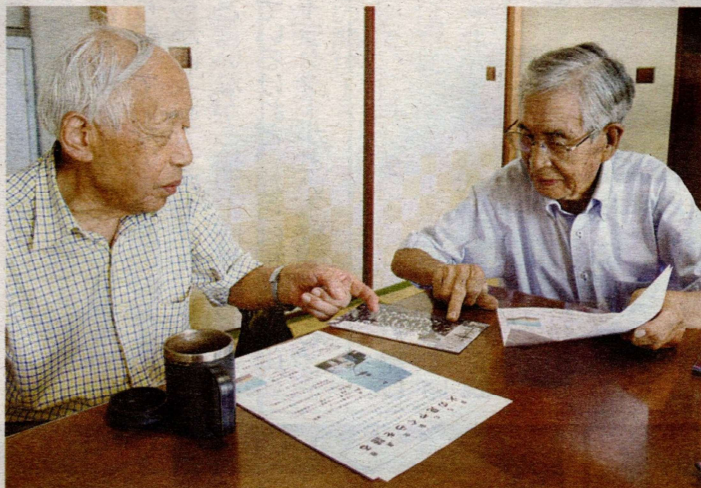
穂高市街地

黒部ダム建設工事の碎石場の監視塔を移築した安曇野市穂高の火の見やぐらが、老朽化のため解体されることになった。中ほどに小屋が併設された、火の見やぐらとしては全国的にも珍しいデザインで、近年は街歩きの見どころの一つにもなっていた。解体を惜しみ、10月1日には地元の高さ21メートルと火の見やぐらの中では大きく、小屋の広さは3平方メートルほど。二木さんは「台風の時期は小屋に5、6人が入って交代で警戒した」と振り返る。火の見やぐらを研究する一級建築士の平林勇一さん(70)によると、鉄工所を営む団員が払い下げられた監視塔を火の見やぐらに再利用することを発案。2分割して運び、団員40人ほどで人力で組み立てたという。

(北條彩乃)

名物火の見やぐら解体へ

別れ惜しみ語る会 来月1日 地元



火の見やぐら建設時の記念写真を見ながら思い出を語る二木さん(右)と井口さん

ぼなくなり、現在は放水ホースを干すために利用するのみだ。市危機管理課によると、年内には解体工事を行い、新たにホース乾燥塔を設置する。歴史的な背景や地元住民の思いを踏まえ、市文化課は写真や図面

を残す「記録保存」を行った。二木さんは「寂しい気持ちはあるが、維持にもお金がかかる。記録として残してもらえれば」と話している。

1日の催しは午前10時からで、平林さんの講演のほかに、当時の消防団員である二木さんと井口喜文さん(87)らの座談会、現地見学会がある。問い合わせは主催のココブラ信州実行委員会事務局(☎0263・84・5021)へ。